

1. 事業の目的・経緯

里山フィールドでは、平成18年(2006年)より続けている里山保全活動を継続して行い、プレーパーク事業「里山ガーデン子どもの冒険ひろば」の開催、子どもの科学教室であるキッズ・サイエンス・クラブ、春のサクラまつり等の地域交流事業により、地域の住民や子どもたちに里山や身近な環境や科学に対する意識の向上を図ることを目的として事業を行ってきた。今年度は環境学習コーディネーター養成講座で地域の指導者養成に力を注いだ。こどもから大学生・大人までの講座を開催し、活動の幅を広げている。

2. 事業内容

定款に掲げる特定非営利活動事業の中で②地域における環境にかかわる調査・研究・企画・教育事業を中心とし、平成28年4月～平成29年3月の間に活動を行った。

事業は、①里山保全活動 ②里山ガーデン冒険ひろば ③キッズ・サイエンス・クラブ ④環境学習コーディネーター養成講座 ⑤サイエンス・カフェ ⑥地域交流事業 ⑦研究活動 ⑧連携教育活動支援 ⑨「海と空の約束プロジェクト」の支援 ⑩里山観察会(自遊人)とオオクワ飼育プロジェクトの連携活動 の10項目である。

① 里山環境保全活動

今年度は毎月1回の定期里山整備を通して里山整備を行った。里山整備の回数・参加人数は減少している。

② 里山ガーデン冒険ひろば

前半は毎月第4日曜日13時～16時開催、後半は毎月第3日曜日13時～16時開催。

「自分の責任で自由に遊ぶ」をコンセプトに、プレーリーダーのサポートのもと、子どもたちは里山を思い切り満喫。常時開催であるが兵庫県青少年本部の補助金を活用したプログラムでは原則月1回プレーリーダーを配置してプログラムを実施。木工教室など子どもが楽しめるフリーマーケットの他、大学生が企画したさまざまなプログラムを実施した。プレーリーダー配置のプログラムは20回実施し、参加人数のべ602名と拡大している。

③ キッズ・サイエンス・クラブ

国立青少年教育振興機構の助成金である子ども夢基金による事業を行った。(子ども 大人)

07/24日 10:00-12:00 動くおもちゃを作ろうその1 (12/10)小松

07/29金 14:00-16:00 見えない光を見よう (1/2)熊谷

07/30土 10:00-12:00 動くおもちゃを作ろう (10/5)上田

08/06土 10:00-12:00 昆虫標本を作ろう 1 (10/3)中濱

08/19金 10:00-12:00 昆虫標本を作ろう 2 (10/3)中濱

08/27土 13:00-15:00 動くおもちゃを作ろうその2 (10/2)小松

11/23水 13:00-15:00 暖かいもの冷たいものを見てみよう、省エネ機器を作って実験しよう (6/5)熊谷

12/17土 13:00-15:00 からくり人形と動くおもちゃづくり (17/19)塩田

その他姫路市の環境学習リーダー養成講座(2017.1.27)等の協力等もあり、回数は増加している。

④ 環境学習コーディネーター養成講座

内容は別紙チラシを参照。兵庫県、(公財)ひょうご環境創造協会からの委託で実施。8回9日間の講座を開催し、定員20名の公募があった。規定を満たした13名に対して(公財)ひょうご環境創造協会理事長名の修了証を授与し、活動経過は同協会のHPにも掲載され、広報誌にも記事が掲載された。

⑤ サイエンス・カフェ

今年度は総会時の記念講演、合田博子先生の「環境神様学」開催のみとなった。

⑥ 地域交流活動

「さくら・つつじ祭り」、「オープン・ガーデン」、「秋のオープンガーデン」を実施した。参加人数延べ1000名以上。里山ガーデンが全国花のまちづくりコンクールで国土交通大臣賞を受賞。

また、恒例のジャコウアゲが飛びかう街姫路連絡協議会の例会の開催(2017.3.19)も行った。

⑦ 研究活動

陸水研究(2017)に第5回巡検報告を投稿した。

⑧大学等との連携活動

兵庫県立大学環境人間学部のフィールドワーク(尾崎教授)および特別フィールドワーク(土川教授)、環境生物学実験及び兵庫の里山(大橋教授)、兵庫大学エクステンションカレッジと連携し、里山フィールドや研究所施設の活用を行った。またエコ・ヒューマン地域連携センターの学生活動との連携活動支援(木の子、STEP、いきものずかん)、兵庫県立大学附属中学校のフィールドワーク、香呂南小学校、城見ヶ丘保育園のフィールド活動支援を行った。

⑨「海と空の約束プロジェクト」との連携活動

里山でのイベント内で環境紙芝居『海と空の約束』の読み聞かせや普及支援を行った。

⑩里山観察会(自遊人)とオオクワ飼育プロジェクトの連携活動

オオクワガタ飼育プロジェクトは今年度 5/14、7/2、8/27、12/3、3/11 の5回開催。自遊人については参加者がほとんどいない状態となり、一時中止。

その他、里川の再生に向け、林田川プロジェクトを開始した。

3. 事業の成果

- ①これまで同様、里山の保全活動を行うことにより、森林の環境が保たれ、遊具の修繕により子どもも安全に遊ぶことができた。また、保全活動を定期的に行うことによって、地域の方の参加を得ることに繋がった。
- ② 環境学習コーディネーター養成講座等、人材育成の事業では地域で活動する方の指導力レベルアップと新たなつながりの創生に役立てた。また学生の補助スタッフ制の導入で学生に学ぶ場を提供し、社会での活動や学習体験の一助となった。
- ③ 研究関係は十分な活動が展開できなかつたが助成金・補助金の獲得により活動はさらに展開できた。
- ④ 大学との連携では学生の社会貢献活動や教育に寄与することができた。
- ⑤ 里山での活動成果(地域活動)が神戸新聞(2016.10.26)に紹介された。
- ⑥ 冒険広場では常設のメリットからか普段から子供たちが自然に訪れ、遊ぶ姿が見られるようになった。
- ⑦ 理事長が兵庫県功労者表彰(地域活動)を受けた。

4. 事業活動の問題点と解決策

2015年度の後半より事務活動が停滞し、事務処理が理事長に集中して事業の進行・事務処理に大きな支障があった。2016年度も1年を通して個人的負担が継続し、事業実施・継続が極めて大変であった。このため2017年度は事務処理をプロジェクト毎への分散化し、それぞれでの実施の体制をつくる必要がある。

一般的に助成金では事務員を雇用することは困難であるが、事業の拡大により事務局を担当する事務局長を置く必要がある(ただし恒久的な資金の問題が伴う)。

サイエンスカフェの参加料金を事業として見合う額として開催するなどして講座として持続可能な形態にしないと継続が難しいという問題がある。

里山整備事業は参加者が少なく、広報の人的余裕もないため対応を検討していく必要がある。」
コーディネーター養成講座は非常に重要な人材育成事業であるが予算がきわめて不足し、大きな負担になった。委託費の大幅増が必要である。